

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01265

研究課題名(和文) 多言語による日本語学用語辞典および日琉諸語の用例に対するグロス規範の作成

研究課題名(英文) Development of a multilingual dictionary of Japanese linguistics terminology and a glossing standard for Japonic languages

研究代表者

ジスク マシュー・ヨセフ (Zisk, Matthew Joseph)

東北大学・国際文化研究科・准教授

研究者番号：70631761

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトの目的は多言語による日本語学用語辞典と日琉諸語の用例に対するグロス規範を作成することで、日本語学に関する国際共同研究を促進することであった。日本語学用語辞典に関しては日本語学・言語学用語辞典58冊の見出し語とその外国語訳をデータベース化し、インターネット上で検索できるシステムを開発した。グロス規範に関しては古代日本語と現代日本語の記述に利用できる形態素グロス及び音素表記の規範と、日琉諸語研究で使用されている形態素グロスの一覧を作成した。この他、定期的開催した科研費ワークショップでグロスと用語を中心とした日琉諸語の記述について議論し、その成果を論文及び学会発表という形で公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、日本で行われる日本語研究は基本的に日本語で記述され、海外で広く受け入れられることがなかった。近年、日本語研究を外国語で発信する研究者が増えてきたものの、日本語学用語の外国語訳や、日琉諸語(現代日本語、古代日本語、日本語方言、琉球諸語)の用例を記述する際の音素表記やグロス(文法的注解)の基準が定まっていないことが日本語研究の国際発信の大きな妨げとなっていた。本プロジェクトでは英語をはじめとし、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の訳を付した多言語による日本語学用語辞典と、日琉諸語の記述に利用できるグロス規範を作成することで日本語学の国際発信と国際共同研究の可能性を大幅に広げることができた。

研究成果の概要(英文)：The goal of this project was to create a multilingual dictionary of Japanese linguistic terminology and a glossing standard for the description of Japonic languages in order to help promote international collaborative research in Japanese linguistics. The project was successful in completing both goals. For the first goal, we created a database of dictionary headwords along with their foreign language translations from 58 specialized dictionaries of Japanese linguistics and general linguistics. We then created an online search engine for quickly searching the database. For the second goal, we created a set of glossing rules including morphemic glosses and phonemicization guidelines for Classical and Modern Japanese as well as a list of morphemic glosses used in previous studies on Japonic languages. Throughout the duration of the project, we also held a number of workshops dedicated to the description of Japonic languages, specifically focused on the topics of terminology and glossing.

研究分野：日本語学

キーワード：日本語学 日本語史 日琉諸語の記述 形態素グロス 音素表記 日本語学用語 言語学用語 日本語学の国際化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

従来、日本における一般言語学とは異なり、日本語学の成果がほとんど日本語でしか発表されてこなかった。その大きな理由として、英語などの外国語における日本語学用語の訳が定まっていないことと、時代・地理的変異を含む日本語の用例を記述するための音素表記や形態素グロス（文法的注解）の規範が存在しなかったことが挙げられる。

日本では、西洋の学問を基にした「言語学」と、伝統的な国語学の流れを受け継いだ「日本語学」がそれぞれ独立した分野として発展してきた。多くの大学で言語学と日本語学が別々の講座として設置されていることがその証拠の一つである。日本のように独自の伝統言語学を持つ国は珍しくない。音韻学・訓詁学・文字学の三分野からなる中国の伝統漢字学や、ヴェーダを正確に理解するために作られたインドの伝統文法ヴィヤーカラナなどがその例である。このような伝統を持つこと自体は決して悪いことではない。むしろ、日本の伝統国語学が日本語に特化した学問であるからこそ、一般言語学にはない知見が多く得られるのである。しかし、独立した分野として発展してきたため、一般言語学の枠組みで行われる海外の日本語研究と国内の日本語研究との間には大きな断絶が生じてきたことは否めない。

このような国内の日本語学と国外の日本語学との間に断絶を生んでいる大きな要因の一つが言語の壁であると言える。つまり、日本語学の成果は国内では日本語で発表され、海外では英語で発表されるのが一般的である。近年、英語で研究成果を発表する国内の日本語学者が増えているが、日本語学用語の英訳が定まっていないことと、日本語の用例を掲示する際の記述方法が研究者によって多種多様であるため、日本語学の論文を英語で書くことは非常に困難である。英語を不自由なく使える研究者であっても、論文を書く度に用語の英訳や記述方法を自分で決める必要があるため、非常に大きな負担がかかる。また、英語以外の言語についても同様の問題がある。すなわち、このような用語の翻訳の問題と用例の記述の問題が日本語研究の国際化を停滞させる大きな妨げとなっていると言える。

2. 研究の目的

以上のような事情を受けて、本プロジェクトでは、日本語研究の国際発信を促進するために次の二つのツールを開発することを目的とした。

多言語による日本語学用語辞典 日本語で出版された言語学・日本語学研究事典から日本語学用語を収集した上で、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語などの外国語訳を付した大規模なデータベース

日琉諸語グロス規範 日琉諸語（現代日本語、古代日本語、日本語方言、琉球諸語）の用例を論文の中で引用する際に利用できる音素表記と形態素グロスの規範

これらのツールをネット上で一般公開することで、日本語学者の英語をはじめとし、外国語による研究成果の国際発信を増やすことが本プロジェクトの主な目的であった。同時に、日本語・琉球語記述の国際規範を定めることで、国内外の様々な国籍の研究者間のコミュニケーションをより円滑にし、日本語学に関する国際共同研究の可能性を広げることがもうひとつの目的であった。

3. 研究の方法

「多言語による日本語学用語辞典」と「日琉諸語グロス規範」の作成は次のように進めた。

【多言語による日本語学用語辞典】日本語で出版された言語学・日本語学研究事典50冊から見出し語と（付記されている場合）その外国語訳を収集し、ひとつのデータベースとして整理した。具体的には各辞書の見出し語と外国語訳をスプレッドシートで記録した後に、Pythonを使ってSQLデータベースに変換し、ネット上で用語が検索できる検索エンジンを作成した。さらに、韓国語による言語学研究事典7冊と中国語による言語学研究事典1冊の見出し語とその外国語訳を電子化し、今後上記データベースに統合する予定である。

【日琉諸語グロス規範】古代日本語、現代日本語、日本語方言、琉球諸語を記述するための用例掲載基準を作成した。具体的には全体的な用例掲載の書式の他に、日本語の各時代に対応した音素表記の基準と形態素グロスのリストを掲載した「古代日本語と現代日本語のグロス規範」と、助詞、動詞接尾辞などの機能形態素グロスを時代ごとにまとめた「古代日本語と現代日本語の機能形態素リスト」を作成し、ネット上で公開した。また、これまでに琉球語研究と方言研究で用いられてきた形態素グロスをリストにまとめて、ネット上で公開した。

この他に、言語学用語と形態素グロスをテーマにした国際学会を開いたり、日本で活躍する言語学者インタビューシリーズをYouTubeに公開したりすることで、日本語研究の国際発信を様々な方面から促進する活動を行った（その詳細は4.3で述べる）。

4. 研究成果

本プロジェクトの研究成果は①「多言語による日本語学用語辞典」に関する成果、②「日琉諸語グロス規範」に関する成果、③その他の成果とに大きく分けられる。

4.1 「多言語による日本語学用語辞典」に関する成果

日本語で出版された言語学・日本語学研究事典50冊から合計61,420語の見出し語（延べ語数；異なり語数＝約34,000語）を収集することができた。見出し語を収集する際に各事典で付記されている英訳やその他の外国語訳、掲載ページなどの情報を記録した。各事典の項目数および英語やその他の外国語の付記状況を示すと表1の通りである。

表1：言語学・日本語学用語の採集に用いた事典一覧

刊行年	題名	出版社	項目数	英語付記	その他の外国語付記
1940	研究社英語学辞典	研究社	2,080	全項目	
1953	研究社英語学辞典（増補版）	研究社	3,029	全項目	
1955	国語学辞典	東京堂出版	2,270		
1958	日本文法辞典	明治書院	530		
1971	新言語学辞典	研究社	1,282	全項目	
1971	日本文法大辞典	明治書院	539		
1973	現代英語学辞典	成美堂	1,787	全項目	
1975	新言語学辞典（増補改訂版）	研究社	1,356	全項目	
1975	言語理論小事典	朝日出版社	1,452		仏
1976	音声学大辞典	三修社	1,581	大部分	独、仏、他
1977	国語学研究事典	明治書院	1,258	一部	
1980	国語学大辞典	東京堂出版	1,482		
1980	ラールス言語学辞典	大修館書店	2,040	大部分	仏
1981	日本文法事典	有精堂出版	115		
1982	日本語教育事典	大修館書店	917		
1987	新英語学辞典	研究者	1,753	全項目	
1988	日本語百科大事典	大修館書店	687		
1988	現代言語学辞典	成美堂	3,062	全項目	
1990	日本語学辞典	おうふう	1,090	一部	
1992	言語学百科大事典	大修館書店	1,587	全項目	
1992	チョムスキー理論辞典	研究社	560	全項目	
1992	日本語事典	東京堂出版	205		
1994	ドイツ言語学辞典	紀伊国屋書店	3,458		独
1994	新版日本語学辞典	おうふう	1,090	一部	
1994	言語学事典：現代言語学基本概念51章	大修館書店	2,252	一部	仏
1996	漢字百科大事典	明治書院	542		
1996	言語学大事典：術語編	三省堂	1,461	大部分	独、仏、他
1997	日本語学キーワード事典	朝倉書店	400	全項目	
1998	日本語教育重要用語1000	パベル・プレス	1,012	大部分	
2001	日本語文法大辞典	明治書院	285		
2002	英語学要語辞典	研究社	1,929	全項目	
2003	応用言語学事典	研究社	1,529	全項目	
2005	新版日本語教育事典	大修館書店	1,001		
2007	オックスフォード言語学辞典	朝倉書店	3,418	全項目	
2007	日本語学研究事典	明治書院	1,531	一部	
2009	漢字キーワード事典	朝倉書店	400		
2012	研究社日本語教育事典	研究社	554	大部分	
2013	ロングマン言語教育・応用言語学用語辞典	南雲堂	3,704	全項目	
2013	数理言語学事典	産業図書	80	全項目	
2013	新編認知言語学キーワード事典	研究社	365	全項目	
2014	日本語大事典	朝倉書店	3,528	全項目	
2014	日本語文法事典	大修館書店	514		
2015	明解言語学辞典	三省堂	330	全項目	
2015	最新英語学・言語学用語辞典	開拓社	3,190	全項目	
2016	チョムスキー理論辞典（増補版）	研究社	704	全項目	
2017	最新理論言語学用語事典	朝倉書店	200	全項目	
2018	日本語学大辞典	東京堂出版	797	一部	
2019	明解方言学辞典	三省堂	190	全項目	
2019	認知言語学大事典	朝倉書店	52	全項目	
2020	明解日本語学辞典	三省堂	228	全項目	
	計		61,420	～60% 英語付記	独3冊 仏5冊

各事典の入力作業が済んだ後に各事典に対して一回ずつ校正作業を行い、その後に東京大学の塚越柚季氏を研究協力者として採用し、各事典のデータをSQLデータベースとして整理した上で、検索システムを作成してもらった。現在、検索システムのデバッグ作業を行っており、年末までには一般公開できるように準備を進めている。

4.2 「日琉諸語グロス規範」の作成に関する成果

定期的に研究代表者と分担者で集まり、グロス規範で採用する音素表記の基準と機能形態素のカテゴリーラベル（グロスに用いる3文字の略号）などについて議論した。その結果、下記の3点の資料を作成することができた。

1. Classical and Modern Japanese Glossing Rules（古代日本語と現代日本語のグロス規範）
2. List of Japanese Functional Morphemes（古代日本語と現代日本語の機能形態素リスト）
3. 「下地理則の研究室 方言グロスリスト」（宮岡大作成）

1. 「Classical and Modern Japanese Glossing Rules」は言語学で広く採用されているLeipzig Glossing Rulesを参考に作成した日本語（古代語と現代語）の記述に特化したグロス規範である。グロスの層（glossing tiers）書式、形態素境界表示に用いる記号という形式的な側面の他に、上代から現代までの各時代（上代、中古、中世、近世、近代、現代）に対応した日本語の音素表記の基準と機能形態素のカテゴリーラベルを示した。以下に中古日本語を例にグロスの見本を掲示する。

4層グロス（1. 原文、2. 音素表記、3. 形態素グロス、4. 英訳）の見本：

1	いまは	むかし、	たけとりの	翁と	いふ	もの	ありけり。
2	<i>ima=pa</i>	<i>mukasi</i>	<i>taketori=no</i>	<i>okina=to</i>	<i>ip-u</i>	<i>mono</i>	<i>ar-iker-i</i>
3	now=TOP	old.times	bamboo.cutter=GEN	old.man=CMP	say-ADN	person	exist-RET-CCL

1	野山に	まじりて	竹を	とりつゝ、	よろづの	ことに
2	<i>noyama=ni</i>	<i>mazir-ite</i>	<i>take=wo</i>	<i>tor-itutu</i>	<i>yorodu=no</i>	<i>koto=ni</i>
3	fields.and.mountains=DAT	enter-SEQ	bamboo=ACC	take-ITR	many=GEN	thing=DAT

1	つかひけり。	名をば、	さぬきの	みやつことなむ	いひける。
2	<i>tukap-iker-i</i>	<i>na=woba</i>	<i>sanuki=no</i>	<i>miyatsuko=to=namu</i>	<i>ip-iker-u</i>
3	use-RET-CCL	name=FAC	Sanuki=GEN	Miyatsuko=CMP=FOC	say-RET-ADN

4 'Once upon a time, there was an old man known as the old bamboo cutter. Every day he would go into the fields and mountains to gather bamboo, which he used for all sorts of purposes. His name was Sanuki no Miyatsuko.'

(*Taketori monogatari* 'Tale of the Bamboo Cutter', late 9th century [SNKBZ 12: 17])

本プロジェクトで作成したグロス規範の特徴は用例がすべて日本語であり、現代語だけではなく、各時代に対応した音素表記のカテゴリーラベルを詳細に示した点にある。これまで日本語学の論文を英語で書く際にLeipzig Glossing Rulesを利用する研究者が多かったが、日本語の用例がほとんど掲示されていないことや、日本語の各時代の音素表記、日本語にしかない機能形態素の記述方法についての説明がなかったため、日本語に適用することが必ずしも容易ではなかった。今回、日本語に特化したグロス規範を作成することで、グロスを書きなれていない日本語学者でも比較的容易にグロスが付けられるようになった。さらに古代語・現代語からの一般の用例の他に、付録として、特に複雑な構造を持つ訓点資料からの用例の掲示方法を示した。古代語・現代語研究は無論のこと、本グロス規範の公開がこれまでに国内に閉ざされがちであった訓点語研究の国際発信にも繋がることを期待している。

2. 「List of Japanese Functional Morphemes」は1.の補助資料として、古代日本語と現代日本語の主な機能形態素に降るべきカテゴリーラベルを一覧にしたものである。古代日本語に対しては動詞接尾辞、補助動詞、形容詞接尾辞、繫辞、助詞、名詞接頭辞、名詞接尾辞、現代日本語に対しては用言（動詞・形容詞・繫辞）接尾辞、助詞の順に250個以上の機能形態素に対するカテゴリーラベルと用法の説明を加えている。

3. 「下地理則の研究室 方言グロスリスト」は琉球語研究および日本語方言研究でこれまでに用いられてきた機能形態素のカテゴリーラベルを一覧にしたものである。1.と2.が本プロジェクト・メンバーからのグロスに関する提案であるのに対して、3.は従来の研究で用いられてきたグロスをまとめたものである。2024年6月現在では学術図書、論文、学会発表など74点（琉球語に関する研究61点、日本語方言に関する研究13点）から472点のカテゴリーラベルと5点の形態素境界表示記号が挙げられている。

上記3点の資料はプロジェクト期間中、定期的に更新し、研究代表者のresearchmap（1と2）および下地理則研究室のwebサイト（3）で一般公開している。

4.3 その他の成果

以上、本プロジェクトで挙げた主要な成果をまとめた。最後に、その他の成果について簡単に触れておく。

【国際学会の開催】

本プロジェクトの一環として、言語学用語、音素表記、形態素グロスをテーマとした次の国際学会を開いた。

1. The First International Conference of Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP 2020)、於伝国の森、米沢市
2. Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization Winter Workshop 2023、於東北大学

LiTGaP 2020では国内外から言語学用語・グロスを取り扱う研究者が17名発表し、2020年2月22日～24日の3日間にわたり、言語記述について活発な議論ができた。その後、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間研究会を開くことができなかったが、2023年3月14日～15日に縮小した形でLiTGaP Winter Workshop 2023を開き、2日間にわたって国内外の研究者10名が言語記述に関して研究発表を行った。

【接語プロジェクトの実施】

グロス規範を作成する際に形態素境界をどう示すかということがひとつの大きな課題となった。すなわち、Leipzig Glossing Rulesをはじめとし、語と語の境界をスペース ()、接辞境界をハイフン (-)、接語境界をイコール (=) で表示することが言語記述において原則となっているが、日本語の場合、助詞と繋辞を語と見なす立場、接辞と見なす立場、接語と見なす立場がそれぞれ存在する。そこで、日本語助詞・繋辞の形態論的ステータスを定めるために、助詞・繋辞の拘束度 (boundedness) と自由度 (freeness) を判断する10種類の形態・音韻的テストを作って、現代日本語の主要な助詞と繋辞をテストにかけた。その結果、日本語の助詞と繋辞は全体的に見て、完全な拘束形態素 (= 接辞) でも完全な自由形態素 (= 語) でもなく、その中間にある接語と見なすべきであることが明らかとなった。また、対照的なデータとして、研究分担者の李勝勲が韓国語の助詞に対して同じテストを行い、日本語と同様に接語的である結果を得た。接語プロジェクトで得られた結果を現在論文としてまとめており、年度内に学術雑誌に投稿する予定である。接語プロジェクトに用いた形態・音韻的テストは次の通りである。

テスト1：拘束形態素は合成語を形成する場合、決まった品詞の語基としか結合しないのに対して、自由形態素は複数の品詞の語基と結合することがある。

テスト2：拘束形態素は通常、単一の単語しか修飾できないのに対して、自由形態素は単一の単語の他に複数の単語を含む句を修飾することもできる。

テスト3：拘束形態素は結合する語基によって意味が変わることがあるのに対して、自由形態素の意味は基本的にどの語基と結合しても変わらない。

テスト4：拘束形態素は前後文脈で理解可能な場合でも省略されることはほとんどないのに対して、自由形態素は文脈で理解可能な場合、省略されることがある。

テスト5：拘束形態素が語基と結合する場合、そのアクセントがひとつに融合されることが多いのに対して、自由形態素同士が結合する場合、独立したアクセントを保つことが多い

テスト6：拘束形態素は通常、独立して使えないのに対して、自由形態素は独立して使えることが多い。

テスト7：拘束形態素は同類の要素が並んだ場合、基本的にその位置を変えることができないのに対して、自由形態素はその位置を変えることができる。

テスト8：拘束形態素は異形態素または補充形と交替することがよくあるのに対して、自由形態素は異形態素または補充形と交替することが少ない。

テスト9：拘束形態素は結合する語基において異形態素または補充形との交替を引き起こすことがよくあるのに対して、自由形態素は結合する語基において異形態素または補充形との交替を引き起こすことが少ない。

テスト10：拘束形態素は合成語を形成する場合、結合できる語基とできない語基との間に恣意的空所 (arbitrary gap) がある場合があるのに対して、自由形態素は同類の要素であれば基本的にどの語基とでも結合できる。

【日本で活躍する言語学者インタビューシリーズの公開】

本プロジェクトの主な目的である日本語研究の国際発信促進の一環として、日本で活躍する代表的な言語学者(主に日本語を扱う研究者)を英語でインタビューし、そのインタビュー動画を編集した上で研究代表者のYouTubeチャンネル(Japanese Linguistics)で公開した。合計7名をインタビューし、その内、2024年6月現在では4人の動画が編集・公開済みである。残りの動画は年度内に公開する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計55件（うち査読付論文 40件 / うち国際共著 21件 / うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 Griffen, Laura & Lee, Seunghun J.	4. 巻 1
2. 論文標題 Morphophonological realization in back vowels in Jeolla and Seoul Korean	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of AJL6	6. 最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34577/00005026	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Lee, Seunghun J. & Villegas, Julin & Oh, Mira	4. 巻 66(2)
2. 論文標題 The non-coalescence of /h/ and Incomplete Neutralization in South Jeolla Korean	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Language and Speech	6. 最初と最後の頁 442-473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00238309221116130	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 ノイツラ ソフィー, 宮川 創	4. 巻 6(s3)
2. 論文標題 HTRプログラムTranskribusによる日本語キリシタン版『コンテムツス・ムンヂ』のデジタルアーカイブ化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 s123-s126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.6.s3_s123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宮川創, 加藤幹治, 町田星羅, カルリノ サルバトーレ, ズラズリ美穂	4. 巻 6(s3)
2. 論文標題 沖縄語のデジタル語彙資源の構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 s206-s209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.6.s3_s206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川 創	4. 巻 1
2. 論文標題 危機にある言語・方言のための 開かれたデジタルアーカイブの構築に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本音響学会2022年秋季研究発表会講演論文集	6. 最初と最後の頁 1651-1654
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Furusawa, Rina & Chan, Le Xuan & Tsujita, Rin & Lee, Seunghun J.	4. 巻 1
2. 論文標題 Prosody of Corrective Focus in Japanese Complex DPs	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences	6. 最初と最後の頁 1444-1448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kamano, Shigeto & Sakamoto, Chikau & Tsujita, Rin & Lee, Seunghun J.	4. 巻 1
2. 論文標題 Segmental and suprasegmental modification in Rakugo-style Japanese Form of presentation	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences	6. 最初と最後の頁 3677-3681
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Narro, Heiko & Yokohama, Akiko & Kimoto, Yukinori	4. 巻 16
2. 論文標題 The SCOPIC Narrative Text 'A Family Problem' for Japanese	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian and African Languages and Linguistics	6. 最初と最後の頁 133-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Perkins, Jeremy & Lee, Dahm & Lee, Seunghun J.	4. 巻 1
2. 論文標題 A Production Study of Korean Consonants	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences	6. 最初と最後の頁 778-782
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyagawa, So & Kato, Kanji & Zlazli, Miho & Carlino, Salvatore & Machida, Seira	4. 巻 1
2. 論文標題 Building Okinawan Lexicon Resource for Language Reclamation/Revitalization and Natural Language Processing Tasks such as Universal Dependencies Treebanking	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Second Workshop on Resources and Representations for Under-Resourced Languages and Domains (RESOURCEFUL-2023)	6. 最初と最後の頁 86-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyagawa, So & Carlino, Salvatore	4. 巻 1
2. 論文標題 Database of Writing Systems and Orthographies for Okinawan Language: Toward Preservation of Okinawan Linguistic Cultural Heritage	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of JADH conference	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, Michinori & Igarashi, Yosuke & Lee, Seunghun J.	4. 巻 1
2. 論文標題 Linguistic Research Using NINJAL Database	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 言語資源ワークショップ2022	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川創	4. 巻 1
2. 論文標題 Omeka S を用いた言語資源デジタルアーカイブの構築	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日琉諸語の記述・保存研究	6. 最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/0002000047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川創	4. 巻 1
2. 論文標題 近世・近代の日本語及び沖縄語訳聖書のパラレル・コーパスの構築	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語資源ワークショップ発表論文集	6. 最初と最後の頁 235-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/0002000131	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川創	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 江戸時代後期の聖書和訳・ギュツラフ訳『約翰音之傳』は新約聖書ギリシア語本文から訳したか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 3752
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20666/nihongonokenkyu.19.2_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川創	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 言語資源デジタルアーカイブにおけるキュレーション: 「国立国語研究所デジタルアーカイブNINDA」の事例から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 情報知識学会誌	6. 最初と最後の頁 156161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2964/jsik_2023_011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川創, 金山博, 田口智大, 當山奈那	4. 巻 1
2. 論文標題 沖縄語のUniversal Dependenciesツリーバンクコーパスの構築	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語処理学会第29回年次大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 743748
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木冠	4. 巻 19(3)
2. 論文標題 書評: 服部紀子著『「格」の日本語学史的研究 江戸期蘭文典と国学からの影響』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川奈津子, 岡田一祐, 永崎研宣, 北崎勇帆, 王一凡, 曹芳慧, 藤原静香, 塚越 柚季, 小川潤, 片倉峻平, 左藤仁宏, 王ブンロ, 石田友梨, 宮川創, 佐久間祐惟, 塩井祥子, 井上慶淳, 村瀬友洋, 関慎太郎, 嵩井里恵子, 渡邊真儀, 中町信孝, 幾浦裕之	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語方言談話資料のTEIによる構造化の試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 じんもんこん2023論文集	6. 最初と最後の頁 8390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川奈津子, 宮川創, 小川潤	4. 巻 9
2. 論文標題 方言研究資料のためのデータベース構築	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 173193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口智大, 宮川創	4. 巻 1
2. 論文標題 形態論情報付き日本語 Universal Dependencies	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語処理学会第29回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 732737
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arii, Tomoe & Lee, Seunghun J.	4. 巻 66
2. 論文標題 The Impact of Word Order on Comparative Interpretation in Japanese-Speaking Children	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Educational Studies	6. 最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arii, Tomoe & Lee, Seunghun J.	4. 巻 75(1)
2. 論文標題 The Impact of Information Structure on Ditransitive Alternation in Japanese	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 横浜市立大学論叢人文科学系列 2023年度	6. 最初と最後の頁 115-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Kanji & Miyagawa, So & Nakagawa, Natsuko	4. 巻 1
2. 論文標題 Language Atlas of Japanese and Ryukyuan (LAJaR): A Linguistic Typology Database for Endangered Japonic Languages	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The 6th Workshop on Research in Computational Linguistic Typology and Multilingual NLP: Proceedings of the Workshop	6. 最初と最後の頁 5557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Irwin, Mark	4. 巻 1
2. 論文標題 Translation: The Roman Transcription of the Christian Materials with a Focus on Vocabulario da Lingoa de Iapam and Rodrigues' Arte da Lingoa de Iapam (Morita Takeshi)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Language in Japan	6. 最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimoji, Michinori	4. 巻 1
2. 論文標題 Inclusives as a Distinct Person Category	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Language in Japan	6. 最初と最後の頁 62-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyagawa, So	4. 巻 1
2. 論文標題 Digitizing Old Nubian Dictionary: Optical Character Recognition for Multi-Lingual and Multi-Script Text From Medieval Africa	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of 7th IEEE Congress on Information Science and Technology (CiSt), Agadir - Essaouira, Morocco, 2023	6. 最初と最後の頁 587592
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジスク マシュー	4. 巻 14
2. 論文標題 訓点語の文法化 漢字・漢語による模倣借用との関連から (漢検漢字化研究奨励賞: 最優秀賞)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漢字文化研究	6. 最初と最後の頁 7-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川 創	4. 巻 34(4)
2. 論文標題 江戸～明治時代の日本語・沖縄語訳「ヨハネによる福音書」の パラレル・コーパス構築とスタイロメトリー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 計量国語学	6. 最初と最後の頁 273-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/0002000131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ジスク マシュー	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 英訳から見えてくる日本学用語の長所と短所	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 126-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジスク マシュー	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 漢字が日本語の意味に与えた影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 漢字之窓	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木冠・徐新鋭	4. 巻 98
2. 論文標題 2005年北海道方言逆使役アンケートデータの再検討：地域差に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道方言研究会会報	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Danielle Barth, Nicholas Evans, I Wayan Arka, Henrik Bergqvist, Diana Forker, Sonja Gipper and Gabrielle Hodge, Eri Kashima, Yuki Kasuga, Carine Kawakami, Yukinori Kimoto, Dominique Knuchel, Norikazu Kogura, Keita Kurabe, John Mansfield, Heiko Narrog et al.	4. 巻 Special Publication 25
2. 論文標題 Language vs. individuals in cross-linguistic corpus typology	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Language Documentation & Conservation	6. 最初と最後の頁 179-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomoe Arii, Seunghun J. Lee, Tomoyuki Yoshida and Jee Eun Sung	4. 巻 64
2. 論文標題 Effects of age, word order, and sentence types on Japanese sentence comprehension: A replication study of Sung et al. (2017) and Sung (2015) on Korean	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Educational Studies	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 乾善彦, 菊池信彦, 宮川創, 小川歩美, 堀井洋, 吉賀夏子	4. 巻 2021-CH-125(2)
2. 論文標題 万葉集伝本研究のためのデジタル基盤構築廣瀬本: 『万葉集』の構造化とビューワの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 情報処理学会研究報告	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木 邦彦	4. 巻 116, 117
2. 論文標題 日本語動詞の可変部を語幹構成要素と見做すことの妥当性: 語幹聲調の位置から導き出される語幹領域	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 44-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下地理則	4. 巻 6
2. 論文標題 方言研究における例文提示法について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 119-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bernd Heine, Tania Kuteva, Haiping Long, Heiko Narrog and Fang Wu	4. 巻 73
2. 論文標題 Where do demonstratives come from?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sprachtypologie und Universalienforschung	6. 最初と最後の頁 403-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/stuf-2020-1002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Narrog, Heiko	4. 巻 10
2. 論文標題 Historical change in the Japanese tense-aspect system	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Historical Linguistics	6. 最初と最後の頁 289-325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/jhl.18017.nar	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mark Irwin and Laurence Labrone	4. 巻 17
2. 論文標題 The Productivity of Apophony in Japanese: An Experimental Approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Graduate School of Social & Cultural Systems at Yamagata University	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Mark Irwin and Laurence Labrune	4. 巻 37
2. 論文標題 Japanese Apophonic Compounds	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 25-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2021-2032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yuri Teno and Seunghun J. Lee	4. 巻 34
2. 論文標題 Identifying Prosodic Features in Heritage Learners of Japanese: A Study based on OPI Interviews	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Foreign Language Education	6. 最初と最後の頁 221-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16933/sfle.2020.34.2.221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ジスク マシュー	4. 巻 第38巻7月号
2. 論文標題 字義の和化と和製の字義 借用形式の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 42-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zisk, Matthew	4. 巻 1
2. 論文標題 Dependent Words and Dependent Forms (translation of Hattori, Shiro. 1950. Fuzokugo to fuzokukeishiki. Gengo kenkyu 15: 1-32)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pioneering Linguistic Works in Japan	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00002232	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zisk, Matthew	4. 巻 43
2. 論文標題 A Brief Overview of Japanese Dictionaries, Past and Present	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AJALT	6. 最初と最後の頁 38-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Zisk, Matthew	4. 巻 43
2. 論文標題 日本語辞書入門 過去の辞書と現代の辞書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AJALT	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sung, Jee Eun & Lee, Seunghun & Eom, Bora	4. 巻 24(3)
2. 論文標題 Aging-Related Differences in the Resolution of Ambiguity from Case Marker Deletions in a Verb-Final Language	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Communication Sciences and Disorders	6. 最初と最後の頁 695-706
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16933/sfle.2020.34.2.221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lee, Seunghun & Aso, Reiko	4. 巻 62
2. 論文標題 The *LONG-C constraint and word-initial aspirates in Hateruma Yaeyama, a southern Ryukyuan language	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Educational Studies	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34577/00004653	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Teno, Yuri & Lee, Seunghun	4. 巻 34(2)
2. 論文標題 Identifying Prosodic Features in Heritage Learners of Japanese: A Study based on OPI Interviews	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Foreign Language Education	6. 最初と最後の頁 221-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Narrog, Heiko	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 Origin and Structure of Focus Concord Constructions in Old Japanese: A Synthesis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glossa: A Journal of General Linguistics	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5334/gjgl.629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Heine, Bernd & Kuteva, Tania & Long, Haiping & Narrog, Heiko & Wu, Fang	4. 巻 73(3)
2. 論文標題 Where Do Demonstratives Come From?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sprachtypologie und Universalienforschung	6. 最初と最後の頁 403-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/stuf-2020-1002/html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Labrune, Laurence & Irwin, Mark	4. 巻 22
2. 論文標題 Apophony, Prosodic Size and Initial Mora Integrity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Phonological Studies	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Irwin, Mark & Labruno, Laurence	4. 巻 17
2. 論文標題 The Productivity of Apophony in Japanese: An Experimental Approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Graduate School of Social & Cultural Systems at Yamagata University	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 下地理則	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 日本語学大辞典について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 42-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20666/nihongonokenkyu.16.1_42	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下地理則	4. 巻 6
2. 論文標題 方言研究における例文提示法について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 119-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計80件 (うち招待講演 23件 / うち国際学会 34件)

1. 発表者名 Chan, Le Xuan & Mitsuhashi, Keitaro & Sato, Kotone & Furusawa, Rina & Tsujita, Rin & Lee, Seunghun J.
2. 発表標題 The prosodic realizations of accented words after NPI: Gender-based differences in Japanese
3. 学会等名 Prosody and Grammar 6 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kamano, Shigeto & Sakamoto, Chikau & Tsujita, Rin & Lee, Seunghun J.
2. 発表標題 Vowel production in Rakugo
3. 学会等名 Phonetic Society of Japan 36
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Lee, Seunghun J.
2. 発表標題 Field Linguistics and Digital Archive: creating language data resources
3. 学会等名 Seoul National University Linguistics Colloquium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Lee, Seunghun J. & Furusawa, Rina & Tsujita, Rin & Chan, Le Xuan
2. 発表標題 Intonation of sentences with an adverbial NPI varying in accent patterns
3. 学会等名 Phonetic Society of Japan 36
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sasaki, Kan
2. 発表標題 The decline of irregularity: What happens to the verb morphology in the Japanese dialects
3. 学会等名 International Symposium on Japanese Studies, "Japan and the World Revisiting Cultural Encounters in the Global Era" (@Online, University of Bucharest / Ritsumeikan University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 The Digitization of Resources for Endangered Indigenous Languages of Japan to Promote the Use and Study of these Languages
3. 学会等名 Conference "The Digital Turn in Early Modern Japanese Studies" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 Introduction to Cross-linguistic Syntactic Study through Universal Dependencies Treebanks and Syntax Parsing through BERT
3. 学会等名 Workshop "Corpus Annotation and Data Analysis (CANDA)" (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Miyagawa, So & Kato, Kanji & Zlazli, Miho & Machida, Seira & Carlino, Salvatore
2. 発表標題 Okinawan Lexicography in TEI: Challenges for Multiple Writing Systems
3. 学会等名 TEI Conference and Members' Meeting 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Suzuki, Michinori & Lee, Seunghun J.
2. 発表標題 Phonetic Cues in the Production of Voicing Contrast in Tohoku and Tokyo Japanese: a database study
3. 学会等名 Phonetic Society of Japan 36
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 文法記述のための古代・現代日本語グロス規範の提案
3. 学会等名 「抄物コーパス」の構築とコーパスを応用した日本語史研究」2022年度第1回研究発表会（於九州大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 江戸時代後期ギュトラフ訳日本語新約聖書の翻訳元について
3. 学会等名 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 セリック ケナン, 籠宮隆之, 宮川創, 木部暢子
2. 発表標題 日本の危機言語語彙データベース
3. 学会等名 令和4年度 第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 自然言語処理のための深層学習: BERT等によるコーパスの自動タグ付け
3. 学会等名 自然言語処理講習会 基盤研究 (B)「推論過程の言語化における地域語のダイナミクスに関する研究: 九州方言を中心に」19H0126、201923年度、代表: 有田 節子 (立命館大学) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 危機にある言語・方言のための開かれたデジタルアーカイブの構築に向けて
3. 学会等名 日本音響学会 2022年秋季研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 日本・琉球の諸言語による 歴史的聖書翻訳のデジタル・パラレル・コーパス化の試み
3. 学会等名 Code4Lib JAPANカンファレンス2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 北琉球奄美語と論島方言の対格標識=Ncjanと他動詞目的語名詞（句）の性格
3. 学会等名 令和4年度 第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 北琉球奄美語と論島方言における対格標識と示差的目的語標示
3. 学会等名 日本言語学会第165回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創, 加藤幹治
2. 発表標題 沖縄語の言語資源学の確立に向けて：語彙資源と談話コーパス
3. 学会等名 NINJALシンポジウム「言語資源学の創成：開かれた言語資源による日本語研究」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川創, 加藤幹治, カルリノ・サルバトーレ, 町田星羅, スラズリ美穂
2. 発表標題 沖縄語のデジタル語彙資源の構築
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第7回研究大会一般研究発表(沖縄現地会場)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 独立性のない語幹をどのように扱うべきか
3. 学会等名 International Symposium on Japanese Studies, "Japan and the World Revisiting Cultural Encounters in the Global Era" (@Online, University of Bucharest / Ritsumeikan University) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Moran, Padraic & Zisk, Matthew
2. 発表標題 Handbook of Glossing: Project Overview
3. 学会等名 Handbook of Glossing Workshop (Galway, Ireland) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nakagawa, Natsuko & Miyagawa, So
2. 発表標題 A multi-media dictionary of endangered languages with TEI Lex-0: a case study of Hatoma, Yaeyama Ryukyuan
3. 学会等名 Encoding Cultures joint MEC and TEI Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 Developing Digital Corpora and Lexica of Japonic Languages
3. 学会等名 2023 Digital Japanese Studies Symposium: Digital Humanities as New Paradigm on Japanese Studies in Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 Digital Lexicography for Coptic and Okinawan
3. 学会等名 Workshop on "Digitization of Historical Lexicography and TEI-Lex0" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 Making Digital Corpus of Bettelheim's Nineteenth-Century Okinawan Bible Translation
3. 学会等名 Pacific Neighborhood Consortium (PNC) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 A corpus and computational linguistics approach to analyzing intertextuality in Late Antique Coptic literature
3. 学会等名 Phonology Forum 2023 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 Digital Preservation and Revitalization of Endangered Indigenous Languages in Japan
3. 学会等名 17th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS 2023) (Ghent, Belgium) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So
2. 発表標題 Adaptation of IIIF for Audio-Visual Resources of Endangered Languages in Japan for Language Preservation
3. 学会等名 IIIF Annual Conference and Showcase - Naples, Italy - June 5-8, 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So & Kato, Kanji & Zlazi, Miho & Carlino, Salvatore & Machida, Seira
2. 発表標題 Building Okinawan Lexicon Resource for Language Reclamation/Revitalization and Natural Language Processing Tasks such as Universal Dependencies Treebanking
3. 学会等名 The 24th Nordic Conference on Computational Linguistics (NoDaLiDa 2023), Second Workshop on Resources and Representations for Under-Resourced Languages and Domains (RESOURCEFUL-2023) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So & Saway, Mona
2. 発表標題 Coptic Glossing Tradition
3. 学会等名 Handbook of Glossing Workshop (University of Galway) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So & Carlino, Salvatore
2. 発表標題 A Database of Okinawan Writing Systems for Digital Lexicography and Language Revitalization
3. 学会等名 8th International Conference on Language Documentation & Conservation (ICLDC 8) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Narrog, Heiko
2. 発表標題 Japanese Morpheme Glosses
3. 学会等名 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Lee, Seunghun J.
2. 発表標題 Testing Cliticood of Korean Postpositions
3. 学会等名 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa, So & Seki, Shintaro
2. 発表標題 Digitization of Ryukyuan Music: MEI of Kunkunshi Notation for Classical and Modern Songs with Sanshin
3. 学会等名 Encoding Cultures joint MEC and TEI Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Zisk, Matthew
2. 発表標題 Towards a Multilanguage Dictionary of Japanese Linguistic Terminology and a Universal Glossing Standard for Japanese
3. 学会等名 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Zisk, Matthew & Irwin, Mark
2. 発表標題 Proposal of a Glossing Standard for Modern and Classical Japanese
3. 学会等名 17th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS 2023) (Ghent, Belgium) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 言語記述における古代・現代日本語の形態素境界表示および音素表記について
3. 学会等名 「抄物コーパス」の構築とコーパスを応用した日本語史研究」2022年度第2回研究発表会 (於日本女子大学)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 日本語学論文を英語で書くための豆知識 学術用語とグロスを中心に
3. 学会等名 日本語学会・国際情報発信強化ワークショップ(第4回)(オンライン開催)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒木邦彦
2. 発表標題 言語研究を見据えた辞書の編纂：鹿児島県中西部方言の事例から
3. 学会等名 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤幹治, 宮川創
2. 発表標題 日琉諸語のマイクロ類型論デジタルアーカイブ構築に向けて
3. 学会等名 第18回CODHセミナー マイクロ類型論とデジタルアーカイブ構築：バントゥ諸語と日琉諸語の事例から
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 デジタル・ヒューマニティーズの手法と実践：言語データ(テキストコーパス・音声・動画)を中心に
3. 学会等名 フィールド言語学ワークショップ：第22回文法研究ワークショップ「文法研究とデジタル・ヒューマニティーズ(1)」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 Omeka S による LOD と IIIF を駆使した言語資源デジタルアーカイブの開発
3. 学会等名 「学術知デジタルライブラリの構築（国語研拠点）」研究集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 沖縄語の表記法について
3. 学会等名 言語学フェス2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 幕末・明治期の新約聖書の日本語諸訳とベッテルハイム沖縄語訳における敬語と待遇表現
3. 学会等名 HiSoPra*研究会（第6回）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 AIによるXML生成実践と次の展開
3. 学会等名 学術情報XML推進協議会 - XSPA（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 生成AIを活用した言語教育
3. 学会等名 神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 学術シンポジウム「デジタルトランスフォーメーション（DX）と言語教育の行方」 （招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 江戸期・明治期の日本語・琉球語訳『ヨハネによる福音書』パラレル・コーパスの構築と翻訳間の影響関係の分析
3. 学会等名 言語資源ワークショップ2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 方言 × AI
3. 学会等名 令和5年度鹿児島大学地域活性化研究支援事業「生成系AIを活用した鹿児島方言コンテンツの開発」（代表者：坂井美日 / 鹿児島大学） 講演会「方言 × デジタル技術の可能性を考える」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 言語資源デジタルアーカイブにおけるキュレーション：「国立国語研究所デジタルアーカイブNINDA」の事例から
3. 学会等名 第31回(2023年度)情報知識学会 年次大会（研究報告会・総会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川創, 金山博, 田口智大, 當山奈那
2. 発表標題 沖縄語のUniversal Dependenciesツリーバンクコーパスの構築
3. 学会等名 言語処理学会第29回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 形態素とグロスの一対一対応
3. 学会等名 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTGaP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 滋賀県大津市方言のウ音便と母音長交替
3. 学会等名 日本方言研究会第117回研究発表会 (オンライン開催)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中川奈津子, 岡田一祐, 永崎研宣, 北崎勇帆, 王一凡, 曹芳慧, 藤原静香, 塚越 柚季, 小川潤, 片倉峻平, 左藤仁宏, 王ブンロ, 石田友梨, 宮川創, 佐久間祐惟, 塩井祥子, 井上慶淳, 村瀬友洋, 関慎太郎, 嵩井里恵子, 渡邊真儀, 中町信孝, 幾浦裕之
2. 発表標題 日本語方言談話資料のTEIによる構造化の試み
3. 学会等名 じんもんこん2023 人文科学とコンピュータシンポジウム「人文学のためのデータインフラストラクチャー構築に向けて」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田口智大, 宮川創
2. 発表標題 形態論情報付き日本語 Universal Dependencies
3. 学会等名 言語処理学会第29回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kanji Kato, So Miyagawa, Natsuko Nakagawa
2. 発表標題 Language Atlas of Japanese and Ryukyuan (LAJaR): A Linguistic Typology Database for Endangered Japonic Languages
3. 学会等名 SIGTYP 2024 Workshop, EAACL 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Sasaki, Kan
2. 発表標題 Vowel length alternation in tsu Japanese
3. 学会等名 Linguistics and Asian Languages 2024 (@Adam Mickiewicz University, Poznan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 So Miyagawa
2. 発表標題 Linguistic Linked Open Data
3. 学会等名 Linked Pasts Japan Kick-off Meeting (開催: 国立情報学研究所・国際高等セミナーハウス) (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Zisk, Matthew
2. 発表標題 Are Japanese Particles Clitics? (revisited)
3. 学会等名 科研費ワークショップ：方言グロスの規範の検討（於東北大学）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 Universal Dependencies・Surface Structure Universal Dependenciesツリーバンク構築セミナー
3. 学会等名 東北大学 大学院文学研究科・文学部 小泉政利研究室（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宮川創
2. 発表標題 国立国語研究所デジタルアーカイブNINDA：デジタルヒューマンティーズとオープンサイエンスの国際標準に準じた言語資源プラットフォームの構築
3. 学会等名 第268回 NINJALサロン
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 漢文訓読が生んだ日本語
3. 学会等名 漢字文化研究所連続講座シリーズ第7弾「古代日本と漢字」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 日本語における古代漢語からの借用形式の分類を捉え直す 二次的借用プロセスに目を向けて
3. 学会等名 第125回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木冠・徐新鋭
2. 発表標題 2005年北海道方言逆使役アンケートデータの再検討：地域差に着目して
3. 学会等名 北海道方言研究会第231回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 日本語動詞の形態的構成：接尾辞付加の適用範囲
3. 学会等名 日本語学会2021年度秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒木 邦彦、佐々木 冠、千田 俊太郎、宮岡 大
2. 発表標題 一般日本語動詞形態論：分節音レベルの共時的記述を超えて
3. 学会等名 日本語学会2021年度秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 漢字が日本語に与えた影響と日本語が漢字に与えた影響
3. 学会等名 2020年度慶星大学韓国漢字研究所HK+事業団国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 千葉県南房総市三芳方言の格
3. 学会等名 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」2020年度 第1回研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 拡張コピュラ文述部の形態論
3. 学会等名 シンポジウム 「日本語文法研究のフロンティア 日本の言語・方言の対照研究を中心に 」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Zisk, Matthew
2. 発表標題 A Proposal for an Online Glossing Encyclopedia
3. 学会等名 Glossing from a Comparative Perspective, Philipps-Universitaet Marburg, Marburg, Germany (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジスク マシュー
2. 発表標題 訓点語における文法化の再検討 派生借用語を中心に
3. 学会等名 第4回日本語と近隣言語における文法化ワークショップ (GJNL-4), 於東北大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zisk, Matthew
2. 発表標題 A History of Views on Verbal Inflections in Japanese Linguistics
3. 学会等名 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization, Denkoku no Mori, Yonezawa, Japan (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 北海道方言の逆使役構文の意味的特徴: クローラによって集めたインターネット上のデータを用いた検証
3. 学会等名 Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するWS
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 千葉県南房総市三芳方言の格
3. 学会等名 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」2020年度 第1回研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木冠
2. 発表標題 拡張コピュラ文述部の形態論
3. 学会等名 シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア 日本の言語・方言の対照研究を中心に」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Labrune, Laurence & Irwin, Mark
2. 発表標題 Japanese Apophonic Compounds: A Preliminary Report
3. 学会等名 Phonology Forum 2019, Sophia University, Tokyo (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Lee, Seunghun
2. 発表標題 Converging Linguistics Terms in Korean Phonology
3. 学会等名 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization, Denkoku no Mori, Yonezawa, Japan (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kuroki, Kunihiro
2. 発表標題 How to Treat Suprasegmentals in Descriptions of Japanese Grammar: Focusing on Syllables, Intonation and Pitch Accent
3. 学会等名 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization, Denkoku no Mori, Yonezawa, Japan (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Narrog, Heiko
2. 発表標題 A Three-digit Gloss List for Grammatical Categories
3. 学会等名 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization, Denkokoku no Mori, Yonezawa, Japan (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sasaki, Kan
2. 発表標題 What is the Proper Gloss for the Oblique Experiencer-specific Case Enclitic gani Used in the Kanto Region
3. 学会等名 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization, Denkokoku no Mori, Yonezawa, Japan (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shimoji, Michinori
2. 発表標題 Boundary Marking in Interlinear Glossing
3. 学会等名 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization, Denkokoku no Mori, Yonezawa, Japan (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計29件

1. 著者名 一般財団法人人文情報学研究所, 石田 友梨, 大向 一輝, 小風 綾乃, 永崎 研宣, 宮川 創, 渡邊 要一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 424
3. 書名 人文学のためのテキストデータ構築入門: TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて	

1. 著者名 Zisk, Matthew (Cinato, Franck & Lahaussais, Aime & Whitman, John, eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 262
3. 書名 Glossing Practice: Comparative Perspectives (Authored Section: Chapter 3, Glossing Glosses: Methods for Transcribing and Glossing Japanese Kundoku Texts; pp. 47-82)	

1. 著者名 ジスク マシュー (ナロック ハイコ・青木博史編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 日本語と近隣言語における文法化 (執筆担当部分: 第3章 訓点語の文法化 漢字・漢語による模倣借用との関連から ; pp.45-107)	

1. 著者名 ジスク マシュー (日本漢字学会編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 648
3. 書名 日本漢字文化事典 (執筆担当部分: 第4章 字義・用法の選別 ; pp.212-213)	

1. 著者名 ジスク マシュー (日本漢字学会編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 648
3. 書名 日本漢字文化事典 (執筆担当部分: 第4章 字義・用法の作製 ; pp.214-215)	

1. 著者名 ジスク マシュー（日本漢字学会編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 648
3. 書名 日本漢字文化事典（執筆担当部分：第4章 訓読みの史の変遷；pp.222-223）	

1. 著者名 ジスク マシュー（日本漢字学会編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 648
3. 書名 日本漢字文化事典（執筆担当部分：第7章 外国人から見た漢字；pp.356-357）	

1. 著者名 ナロック ハイコ，青木博史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 日本語と近隣言語における文法化	

1. 著者名 ナロック ハイコ，青木博史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 日本語と近隣言語における文法化（執筆担当部分：第1章 日本語と近隣言語における文法；pp.1-15）	

1. 著者名 ナロック ハイコ, 青木博史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 日本語と近隣言語における文法化 (執筆担当部分: 第2章 係り結びの発生と構造諸仮説検証; pp.17-43)	

1. 著者名 下地理則	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 日本語と近隣言語における文法化 (執筆担当部分: 第8章 琉球諸語における双数形—類型と歴史; pp.180-220)	

1. 著者名 下地理則	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 360
3. 書名 類型論から見た語の本質 (執筆担当部分: 第6章 宮古語伊良部島方言における複合と語性; pp.188-220)	

1. 著者名 ジスク マシュー (佐藤武義編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 175
3. 書名 シリーズ 日本語の語彙 2 古代の語彙 大陸人・貴族の時代 (執筆担当部分: 第9章 『日本霊異記』 の語彙; pp.116-132)	

1. 著者名 佐々木冠 (木部暢子・竹内史郎・下地理則編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 309
3. 書名 日本語の格表現 (第12章「日本語方言の斜格」分担執筆: pp.255-277)	

1. 著者名 佐々木冠 (セリック・ケナン・木部暢子・五十嵐陽介・青井隼人・大島一編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立国語研究所	5. 総ページ数 536
3. 書名 日本の消滅危機言語・方言の文法記述 (「千葉県南房総市三芳地区」分担執筆: pp.37-76)	

1. 著者名 Heiko Narrog and Hiroshi Abe (Gerda Hassler and Sylvie Mutet (eds.))	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Mouton de Gruyter	5. 総ページ数 700
3. 書名 Manual des modes et modalites (Chapter 6: Modalite; et typologie des langues romanes, 分担執筆: pp.125-150)	

1. 著者名 佐々木冠 (林由華・衣畑智秀・木部暢子編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 296
3. 書名 フィールドと文献からみる日琉諸語の系統と歴史 (第9章「不規則性の衰退: 日本語方言の動詞形態法で起きていること」分担執筆: pp.229-258)	

1. 著者名 Heiko Narrog (Pascal Hohaus and Rainer Schulze (eds.))	4. 発行年 2020年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 344
3. 書名 Modalising Expressions and Modality: Categories, Co-text, and Context (Chapter 3: The scope of modal categories: An empirical study, 分担執筆: pp.47-77)	

1. 著者名 Heiko Narrog (Pascal Hohaus and Rainer Schulze (eds.))	4. 発行年 2020年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 344
3. 書名 Modalising Expressions and Modality: Categories, Co-text, and Context (Chapter 7: Modal marking in conditionals. Grammar, usage and discourse, 分担執筆: pp.173-193)	

1. 著者名 Heiko Narrog and Bernd Heine	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 911
3. 書名 The Oxford Handbook of Grammaticalization. Paperback edition	

1. 著者名 Heiko Narrog	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 408
3. 書名 Grammaticalization	

1. 著者名 ジスク マシュー (大木一夫編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 328
3. 書名 ガイドブック日本語史調査法 (執筆担当部分: 第10章 用例を集める ~ 第11章 電子テキストを利用する、pp.211-260)	

1. 著者名 Zisk, Matthew & Irwin, Mark	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Asakura Shoten	5. 総ページ数 286
3. 書名 Japanese Linguistics	

1. 著者名 Sasaki, Kan (Tsunoda, Tasaku ed.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 868
3. 書名 Mermaid Construction: A Compound-Predicate Construction with Biclausal Appearance (執筆担当部分: Chapter 3, Mitsukaido dialect of Japanese, pp. 125-166)	

1. 著者名 Hara, Yurie & Kawahara, Shigeto & Lee, Seunghun (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 International Christian University	5. 総ページ数 91
3. 書名 ICU Working Papers in Linguistics 7: Festschrift for Prof. Tomoyuki Yoshida on his 60th birthday	

1. 著者名 Guillemot, Cleste & Sano, Shin-ichiro & Lee, Seunghun (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 International Christian University	5. 総ページ数 123
3. 書名 ICU Working Papers in Linguistics 10: Festschrift for Prof. Junko Hibiya in the occasion of her retirement from ICU	

1. 著者名 Kuteva, Tania & Heine, Bernd & Hung, Bo & Long, Haiping & Narrog, Heiko & Rhee Seongha	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 644
3. 書名 World Lexicon of Grammaticalization, Second Edition	

1. 著者名 竹内史郎・下地理則編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 日本語の格標示と分裂自動詞性	

1. 著者名 下地理則 (岩野晃監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 ダメになる人類学 (執筆分担部分: 第4部 第4章 用語に惑わされてはダメ! 琉球語の数と人称について)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

古代日本語と現代日本語のグロス規範・古代日本語と現代日本語の機能形態素リスト
<https://researchmap.jp/mzisk/misc>
<https://tohoku.academia.edu/MatthewZisk/Research-and-Teaching-Materials>

下地理則の研究室：グロスづけ支援
<https://www.mshimoji.com>

LiTGap 2020
<https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/litgap2020/home>

Japanese LinguisticsのYouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@japaneselinguistics2390>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Irwin Mark (Irwin Mark) (40361240)	山形大学・人文社会科学部・教授 (11501)	
研究分担者	李 勝勳 (Lee Seunghun) (20770134)	国際基督教大学・教養学部・上級准教授 (32615)	
研究分担者	黒木 邦彦 (Kuroki Kunihiko) (80613380)	神戸松蔭女子学院大学・文学部・准教授 (34513)	
研究分担者	佐々木 冠 (Sasaki Kan) (80312784)	立命館大学・言語教育情報研究科・教授 (34315)	
研究分担者	下地 理則 (Shimoji Michinori) (80570621)	九州大学・人文科学研究院・准教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Narrog Heiko (Narrog Heiko) (40301923)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	宮川 創 (Miyagawa So) (40887345)	筑波大学・人文社会系・准教授 (62618)	2021.04.01より
研究分担者	沈 力 (Shen Li) (90288605)	同志社大学・文化情報学部・教授 (34310)	2020.03.31まで

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	塚越 柚季 (Tsukagoshi Yuzuki) (30981782)	東京大学・大学院人文社会系研究科・助教 (12601)	多言語による日本語学用語辞典の検索システムを開発した

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Linguistics Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTgAP) Winter Workshop 2023 (@Tohoku University)	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 1st International Conference on Linguistic Terminology, Glossing and Phonemicization (LiTgAP 2020), Denkoku no Mori, Yonezawa, Japan	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関